

校長室だより



ふとうふくつ 不撓不屈～パラリンピアン^{かつやく}の活躍から～

5日、東京2020パラリンピック大会の閉会式が行われ、13日間におよぶ熱戦の幕が下ろされました。

日本は最終日、なんと3つの金メダルをふくむ8つのメダルをかく得し、全部のメダル数は17年前のギリシャ・アテネ大会に続く歴代2位となる51個になりました。メダルの数がすべてではありませんが、オリンピックでもパラリンピックでも、選手が勝利や自分の記録更新を目指してひたむきに努力してきた結果、そのごほうびとして輝くメダルがあることを思えば、やはり多くのメダルを得られたこの東京大会は、私たちにとってもうれしく思い出に残る大会だったと言えるのではないのでしょうか。

パラリンピックの選手たちの姿を見ていると、思い浮かぶ四字熟語があります。

「不撓不屈」—— 高学年の人は読めるかな？そう、「ふとうふくつ」です。どんな苦勞や困難にもくじけない様子を表す言葉です。

今回の大会で日本初のメダルをふくむ二つの銀メダルをとった、水泳の山田美幸選手は、生まれつき両腕がありません。そうした障害をもちながら、両脚はもちろん、身体全体の使い方を工夫して、みごと最高の舞台上で自己最高の泳ぎを見せました。腕がないことでの苦勞や困難は、私たちの想像をはるかに超えるものですが、山田選手はそれに負けず、自分にできる精一杯の努

力を続け、栄冠を勝ち取りました。

その不撓不屈の精神に心の底から拍手を送りたいです。

だれだって 苦手や、いやだ

なあ、つらいなあと思うことはあるでしょう。それとどう向き合い、乗り越えるか——。

パラリンピアン^{かつやく}の活躍から、みなさんはどんなことを考えましたか？



50m・100m背泳ぎ（運動機能障害）銀メダリスト
山田 美幸 選手（14歳）

油断しないで！デルタ株の猛威

今日、新型コロナウイルス感染症対策デルタ株対応チェック表を配りました。みなさんにお家の方と取り組んでもらうことで、感染症対策がゆるんでいるところはないか、改めて見直そうというものです。

デルタ株は従来のウイルスより感染力が強く、子供も感染しやすいことが分かっています。学校で集団感染が起きないように、今まで以上に注意しなければなりません。みんなで感染予防をしっかりとっていきましょう。

新型コロナウイルス感染症対策 小学生のみなさんへ

できていたらチェックを入れましょう

- 毎日、登校前に体温をはかっていますか？
- 登校後、給食の前、休み時間の後に手洗いをしていますか？
- マスク（不織布）で鼻と口をおおっていますか？
- 給食時は、おしゃべりしないようにしていますか？
- 友達と遊ぶときには、くっつかないように気を付けていますか？
- 自分や家族の体調がよくないときは、学校を休んでいますか？
- 下校時は、よりみちないで家に帰っていますか？
- 学校から帰ったら、すぐに手洗いをしていますか？

気を付けましょう！

熱っぽいときや、かぜの症状のときに無理して登校しない、給食の箱や箸に、マスクをしないでおしゃべりしない、マスクを昇しておしゃべりしながら手洗いをしない。

※本人の判断でできる範囲で2m（最低1m）空けることを意識してください。（文部科学省）

保護者の皆様

2学期が始まりましたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染状況は好転しているとは言えません。本日、上で紹介している「対応チェック表」を配布しました。裏面には保護者の皆様向けのチェック表もついていますので、ぜひお子さんと一緒にチェックしてみてください。感染力が強いデルタ株に対して、学校は特に目新しい対策ができるわけではありません。これまでの対策を徹底していくことで集団感染を発生させないように努めて参ります。なにとぞご理解・ご協力をお願いいたします。